

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和6年度第5回朝霞第三中学校学校運営協議会	
開催日時	令和7年2月4日（火） 午前10時から午前11時30分まで	
開催場所	朝霞市朝霞第三中学校 図書室	
出席者及び欠席者の職・氏名	・白鳥 成章 ・關野 武男 ・本多 武 ・金子 雅美 ・狩野 浩二 ・正野 寛樹 ・中村 菜々子 ・野口 邦彦 （欠席）渡辺 聡 司会・記録：犬木 勝（教頭）稲泉 功（主幹教諭）	
議題	（1）令和6年度の学校評価アンケートのまとめについて （2）令和7年度の学校運営について （3）その他	
会議資料	（1）第5回学校運営協議会次第	
会議録の作成方針	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☐ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 司会・記録 による確認	
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会 委員長あいさつ

- ・今後のPTAのあり方について

2 学校長あいさつ

- ・スキー林間
- ・3年受験について
- ・中学1年生から変更となる入試制度について
- ・地域、保護者と共にある学校運営について

3 協議

（1）令和6年度学校評価アンケートのまとめについて

●校長より

- ・学校だよりでアンケート結果を周知した。
- ・教師主体から生徒主体の授業へのシフトを、保護者理解をすすめていく必要がある。
- ・本校の学力と埼玉県学力学習状況調査、全国学力学習状況調査の平均との比較において高い数値である。思考力判断力をさらに伸ばすことは必要である。
- ・自己肯定感など非認知能力についても悪い数値ではない。
- ・新体力テストについて県平均より高い項目も少なくない。
- ・体力に関するアンケートについて生活習慣の改善が必要な生徒もいる。数値だけでなく個で見ていく必要がある。

委員B：学力学習調査の得点について他校との比較は高いが、このテストはどこを目標にしているのか。

校 長：学力がどの程度伸びたのかを図れるような問題が多い。上位の生徒、そうでない生徒のそれぞれの学力の伸びを見ることに主眼が置かれている。6割程度とれることは目安ではある。

委員B：全員の学力分布を網羅した内容のテストになっているという理解でよいか。

校 長：数値がどうなのかというご意見もいただく。一番大事なのは学校全体として他校と比べることではなく個の伸びを見ていくことが大切であるが、こういった自校と市、県と比べた数値を出すことはどうか。

委員H：保護者から学力を上げてくれというような要望はあるか。あるならば数値を公表することとの関係性はどうか。

校 長：直接上げてくれという要望はないが昨年度は公表していた。

委員B：数値を公表する際にはその読み方を説明することが大切である。

校 長：学校だよりで公表していく。

委員B：結果の人数分布について、下位層の生徒に対する配慮はあるのか。

校 長：教員によるティームティーチングなども実施している。

委員E：通塾など地域の実情も大きく関係していると思う。

（2）令和7年度学校運営について

●校長より

- ・「育つ」をバージョンアップして踏襲した運営を行っていく。
- ・次年度より研究校になり協働的な学びを主体にした研究を進めていく予定である。
- ・様々なつながりを大切にして、生徒の学びを豊かにできる教師を目指す。
- ・授業目的に応じたAIドリルの活用をすすめる。
- ・チームによる生徒指導を行う。

・みんなで生徒の「育つ」を支援する。地域と共にあるコミュニティスクールの充実
委員G：学校経営方針がたくさんあるが重要視しているところはどこか。絞った方がいいのではないかな。

校 長：各項目が関連づいており、全て大切ではあるが、次年度変えたいところ、重視するポイントはある。ここは、というところがあればご意見いただきたい。

委員G：学校の荒れ防止に関することは、重点策に盛り込めるとよい。

委員A：地域とともにある学校を目指すためには、地域からどう見られているかを気にして手立てをアピールしていくことが必要である。そのための手立てをPTAなど保護者と協力していくことが大切ではないかな。

委員G：安全面の工夫として、登下校の工夫が必要である。

委員A：防犯面も含めて対策が必要なのではないかな。

委員E：学校のルール面の変更は、問題意識がある際に変えていかなければならないので、機会を逃さないようにできるとよい。

委員A：学校評議員制度と学校運営協議会の違いが明確ではない。運営協議会の学校へのかかわり方を変えていくことが必要である。例えば、保護者への学習講座の開催なども視野にいれているがどうか。

委員G：学校運営協議会の法的な位置づけはある。教職員の任命に関する議論が出ない現状はよいことととらえたい。

校 長：PTAの在り方、学校応援団の組織についてはどうか。学校を支援してもらう組織について。

委員E：関わりやすさが大切である。強制的でない保護者の関わりができるとよい。まず学校に入っていたきたい。

委員G：PTAにこだわらず、保護者が学校との関わりを作っていくべきだと思う。

委員E：防犯上の観点からは、卒業生も含めて学校と関わってもらえるとよい。

委員B：地域で育てるという概念が、現時点の体制では機能の発揮が難しい。実行する人員や組織が必要なのではないかな。

校 長：PTAとのかかわり方、すみわけが課題ではある。

委員G：保護者もいやいや参加するのではなく楽しんで参加できるとよい。

校 長：保護者、教員と一緒に学べる場があるとよい。法的や制度的なことなどもその一例である。保護者に啓発されていくことで、学校保護者が一体となって子供の成長を支援できる。

委員G：学校運営協議会としての意見は、生徒の安全面についての配慮と不登校、いじめを少ない状態で保っていただきたいということである。

委員B：本日の方針については、暫定的に承認ということではよろしいか。

委員一同同意

校 長：人事に関しては教員個人に関してではなく、学校が力を入れたい部分の人事に関する意見を述べるができる。

(3) その他

●校長より

- ・委員継続についてのお願い
- ・運営協議会委員の今後については入れ替えの可能性も含め承諾いただきたい。

4 連絡

●事務局より

- ・卒業式、入学式の参加依頼について
- ・令和7年度第1回学校運営協議会の開催について4月16日（水）に設定

5 閉会のことば

副委員長：教育の質向上、教職員の働き方の改善についても令和7年度の学校運営協議会で議論提言していけるとよい。